

ロボコンて何なの？

建設システム工学科教官 西山 等

高専のロボットコンテストは、今年で13回目を数える。それも毎年ちがう課題で。これらの課題には正解というものが無い。もし、同じ課題を2回以上繰り返しやってみたら、何個かの正解と思われる解に収束しそうだが、決してそれらは正解と言えない。逆に言えば、無限個の正解が存在する。ロボコンの神髄はここにあり？！

ロボットは動くからおもしろい。車やバイクと同じ？いやちがう、車やバイクは今や成熟している大人みたいなものだが、ロボコンに出るようなロボットは未熟そのものの赤ちゃんみたいなもの。赤ちゃんは無限の可能性を秘めていると誰かが言いました。人間の赤ちゃんは、初め立てないのにおよそ1年かけて二足歩行できるようになる。二足歩行ロボットはまだ未熟なくせに？！赤ちゃんは偉い。出来そうで出来ない。でも、あとひと踏ん張りすれば出来る。そして、出来たときの喜びは何ものにも変えがたい。これがものづくりのおもしろみの？！

創造性という言葉が久しく叫ばれ、いかに創造性を発揮するかがロボコン出場ロボットを製作するものに課せられた課題です。でも創造性って一体何なの？これまでの固定観念の打破？。ある大学の偉い先生がある授業の宿題として、「地下鉄にはなぜ窓があるか？」という課題を出しました。窓があれば駅についたことがわかるというもっともらしいものや、地下鉄といってももともと電車であり、電車にはもともと窓が付きものであり、そのまま電車を地下に走らせたから地下鉄には窓がついているといったものまで多種多様な正解？の解答が出てきました。ここであげた二つの正解は全く性格を異にしています。一つは目的というものをまともに考えたものであるし、もう一つは、若干ふざけた気持ちで解答したものです。目的というものを直接的に考えすぎるとこれまでの固定観念が頭にちらついて発想が貧困になるし、まあ創造性というのは目的を超越した遊び心とでも解釈しておきましょう。

ロボコンは読んで字のごとくコンテスト、決して競技で勝ち進まなくても審査員推薦で国技館に行けます(あくまでも選ばれれば)。これまでに舞鶴高専は何回か全国

大会に行きました。結果論ですが、全国大会に行くことのできたロボットは、勝ち目的で製作し確実に動き機動力が高いロボットとアッと驚くアイデアをマシンに組み入れたロボットの二種に大別できます。いずれにしてもロボットは動かな話になりません。今までの実績をみると、全国大会に行ったロボットは、最低1週間学校で鍛え上げている。製作メンバーにまとまりがある。この二つに共通点がないと全国出場はまず無理でしょう。まあ精神論的には体育会系に通じるものがあります。

ロボコンの将来？そんなことはわかりません!!。イベントとしては、それなりに盛大になりましたが…。それなりにお金もかかっています。ロボコンも不景気の影響を受けています。景気のいいときには、某巨大メーカーがどんどんお金を出してくれていたようですが、この不景気では…。でも、しばらくはこのイベントは続くでしょう、やり方がいろいろ変わるとしても。ロボコンの教育的意義と経費が見合う限りは……。

ロボコンの合い言葉「めざせ国技館!!」??。昨年度の近畿大会のオープニングのときにも、「めざせ国技館!!」を皆さんと一緒にといった感じで言われました。でも、なぜ国技館なの？。私は知っています。東京=日本の中心、競技場の大きさ=相撲の土俵より若干?大きい、お客さん=たくさん入る(マス席+2階席)。控え室=力士の支度部屋等々で最適なのは国技館。でも、大相撲でも名古屋、大阪、九州場所があるようにロボコン全国大会も2回に1回位は地方場所をやってもらいたいですよね!皆さんそう思いませんか??。やはり、ロボコンも現場でみるのとテレビでみるのは違います。現場でみるならできるだけ皆さんのお住まいに近いほうが旅費もかかりませんか??。

今回は私の独断と偏見で(いつもですが)ロボコンについて、書かせてもらいました。同窓会誌が発行されるころには、すでに今年度の結果が出ているでしょう。それが、良き結果であることを祈りつつ……そろそろキーボードを叩くのをやめようと思います。最後になりましたが、ロボット製作にあたって、いつも経費面でお世話になっている本校同窓会に感謝申し上げます。